

令和 4 年度 守山市地域包括支援センターの 実績について

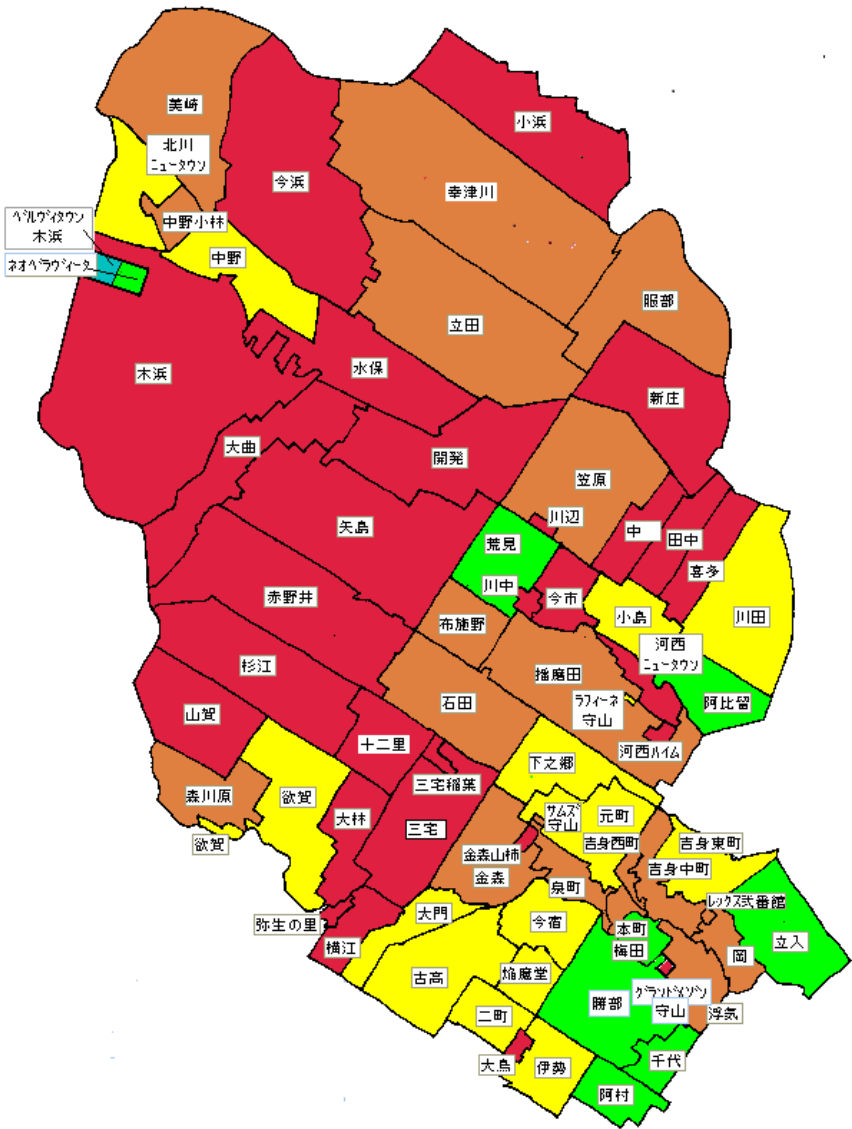
守山市の人口および高齢化率

令和5年4月1日現在	人数・率
総人口	85,675人
65歳以上人口	19,005人
高齢化率	22.2%
高齢化率（全国）※	29.0%
高齢化率（滋賀県）※	26.8%
世帯数	34,624世帯

2025年(令和7年)推計	人数・率
総人口	86,328人
65歳以上人口	19,344人
高齢化率	22.4%

※全国、滋賀県の高齢化率：
令和5年1月現在の概算値

凡例		自治会数
	7%未満	1
	7%以上（高齢化社会）	8
	14%以上（高齢社会）	15
	21%以上（超高齢社会）	19
	31%以上	28



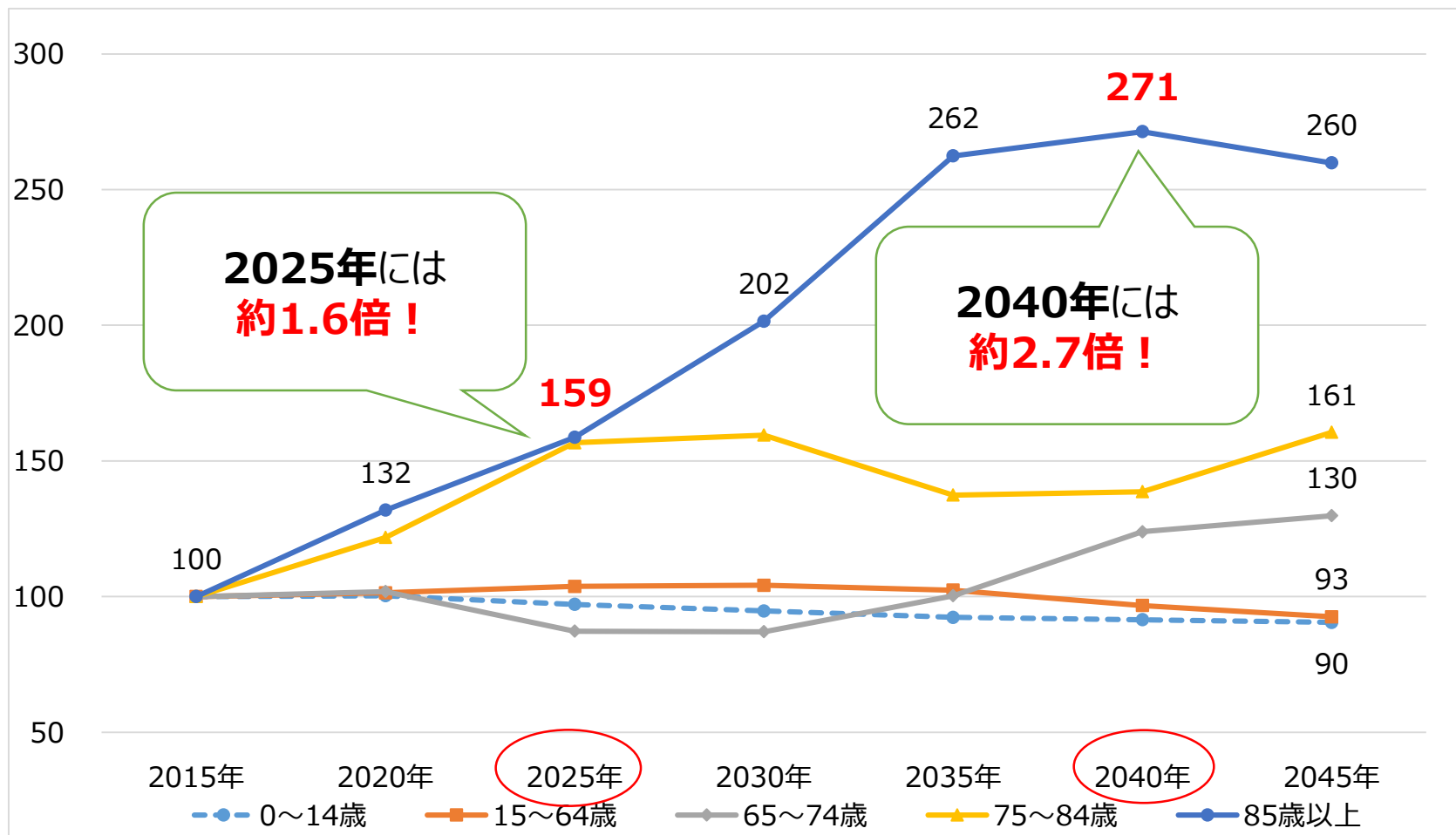
(合計 71 自治会)

守山市の人口推計

【 2015年を100とした場合の2045年までの人口推計 】

2015年を100とした場合、2040年には85歳以上の人は271/100（＝約2.7倍）となります。

一方で、0歳～14歳、15歳～64歳までの人口は90/100となり、人口が減少することが予測されています。



2025年に向けた地域包括支援センターの機能強化

北部地区地域包括支援センター H28.10開所
北公民館内 委託先：社会福祉法人慈恵会

- 北部地区（河西・速野・中洲）人口 30,035人
- 高齢者人口 7,491人 高齢化率24.9%
（前期：3,581人 後期：3,910人）
- 要支援者数：316人 ※事業対象者含む
- 要介護者数：994人
- 2025年における見込み
高齢化率25.2%

■ 3 圏域中最も高い高齢化率、最も多い要介護者数、後期高齢者数であり、“介護予防”と疾患の発症・重症化予防を目的とした“保健事業”を一体的に進めていくことが必要。

基幹型地域包括支援センター（市直営）
による各圏域の総括・後方支援
すこやかセンター内（1階）

南部地区地域包括支援センター H31.4 開所
エルセンター敷地内 委託先：社会福祉法人慈恵会

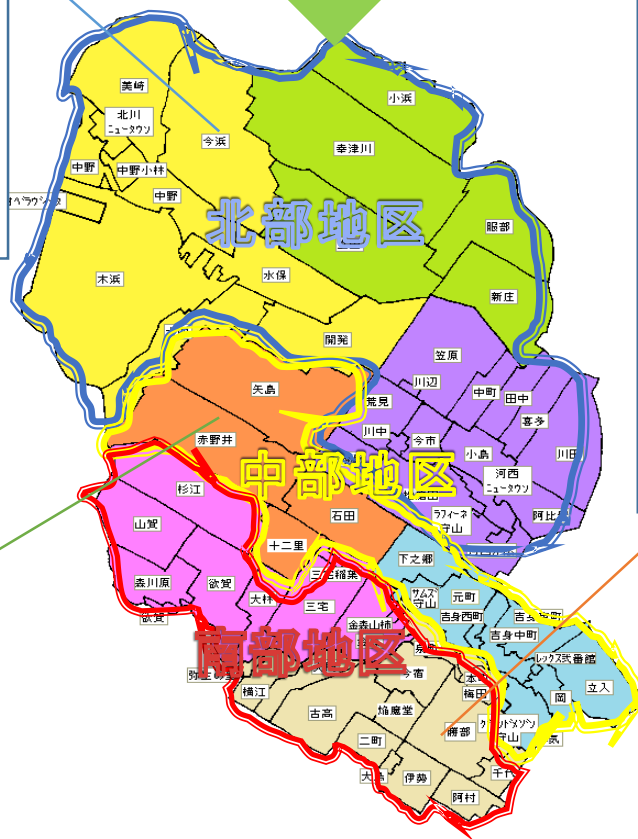
- 南部地区（守山・小津）人口 33,604人
- 高齢者人口 6,477人 高齢化率19.3%
（前期：3,078人 後期：3,399人）
- 要支援者数：300人 ※事業対象者含む
- 要介護者数：800人
- 2025年における見込み
高齢化率19.6%

■ 3 圏域中最も低い高齢化率であるが、1人暮らし、高齢者のみ世帯数が最も多い。駅前にはマンションが立ち並び、地縁の少なさが課題。また、要介護認定の主治医意見書より、認知症が原因で要介護状態となった人が多く、認知症施策の強化が必要。

中部地区地域包括支援センター R3.4 開所
すこやかセンター内（2階）
委託先：社会福祉法人守山市社会福祉協議会

- 中部地区（吉身・玉津）人口 22,036人
- 高齢者人口 5,037人 高齢化率22.9%
（前期：2,410人 後期：2,627人）
- 要支援者数：223人 ※事業対象者含む
- 要介護者数：674人
- 2025年における見込み
高齢化率23.2%

■ 3 圏域中、高齢者人口、後期高齢者人口、高齢者のみ世帯数は最も少ない。今後の介護予防活動が重要。



守山市人口 85,675人
高齢化率 22.2%
高齢者人口 19,005人
前期高齢者 9,069人
後期高齢者 9,936人

（各データはR5年4月現在）

センターの人員体制

※令和5年4月1日現在

基幹型



◆所長
(保健師)



◆係長
(行政職)

◆事務員 2人

計 22人

介護予防ケアマネジメント

- ◆行政職 2人 ※
- ◆ケアプランナー
(看護師) 1人

センターの機能充実 (地域ケア会議含む)

- ◆保健師 2人 ※

圏域センターの後方支援

- ◆保健師 6人 ※
- ◆危機管理専門員 1人

在宅医療・介護連携推進事業

- ◆保健師 2人 (うち 1人※)
- ◆主任介護支援専門員 1人
- ◆看護師 1人

認知症総合支援事業

- ◆保健師 3人※
- ◆看護師 1人
- ◆社会福祉士 1人
- ◆介護福祉士 1人

一般介護予防事業

- ◆保健師 1人
- ◆理学療法士 2人※

(※…他の業務と兼務)

南部

担当学区：守山、小津

人口：33,604人、

高齢者人口：6,477人、高齢化率：19.3%



◆所長
(社会福祉士、
主任介護支援専門員)

- ◆保健師 1人
- ◆社会福祉士 1人
- ◆介護支援専門員 2人

計 5人

中部

担当学区：吉身、玉津

人口：22,036人、

高齢者人口：5,037人、高齢化率：22.9%



◆所長
(社会福祉士、
主任介護支援専門員)

- ◆保健師 1人
- ◆社会福祉士 1人
- ◆介護福祉士 1人
- ◆社会福祉主事 1人

計 5人

北部

担当学区：河西、速野、中洲

人口：30,035人、

高齢者人口：7,491人、高齢化率：24.9%



◆所長
(主任介護支援専門員)

- ◆保健師 1人
- ◆看護師 1人
- ◆主任介護支援専門員 1人
- ◆介護支援専門員 1人

計 5人

1 総合相談支援業務

高齢者が住みなれた地域で安心してその人らしい暮らしができるよう、各圏域包括窓口においてワンストップの相談受付を行い、課題を整理し、地域のサービス、介護保険制度の利用支援および関係機関との連携を図りました。

また、相談内容により緊急性に応じた迅速な対応に努め、困難事例についても、圏域包括と基幹型が連携を図り、対応を行いました。さらに、令和3年度からは重層的支援体制により、複合的な課題がある事案において関係課との連携による支援に努めました。

【総合相談支援業務】（市全体 相談件数：18,636件）

単位：件	項目	令和2年	令和3年	令和4年
南部	相談延べ件数	5,655	5,419	5,608
高齢者人口 6,420人	うち緊急性が高いケース	1,600	833	409
中部	相談延べ件数	4,968	4,862	6,221
高齢者人口 5,007人	うち緊急性が高いケース	1,052	1,212	612
北部	相談延べ件数	5,346	6,739	6,807
高齢者人口 7,441人	うち緊急性が高いケース	657	675	952

【主な相談案件】

- ・ ころとからだの健康に関する相談
- ・ 介護保険に関する問い合わせ
- ・ サービス利用についての相談、調整
- ・ サービス利用拒否・未導入の相談、調整
- ・ 民生委員・児童委員、自治会長からの相談
- ・ 認知症等の疾病
- ・ 権利擁護に関する相談
- ・ 安否確認等の緊急支援
- ・ 生活困窮高齢者に関する緊急支援
- ・ 警察からの要請による独居高齢者
- ・ 認知症高齢者等への対応
- ・ **住み替えに関する相談**

【基幹型と圏域相互の相談・連携】

単位：件	項目	令和2年	令和3年	令和4年
南部	相談延べ件数	1,186	520	557
中部	相談延べ件数	—	328	609
北部	相談延べ件数	595	613	666

【主な相談案件】

認知症の困難事案、行方不明事案、高齢者虐待、安否確認等の緊急支援・緊急搬送、警察対応、複合課題があり他課連携が必要な事案



高齢者人口の増加により、年々相談件数が増えています。複雑で複合的な課題のあるケースも多く、関係機関との連携強化を図るとともに、地域包括支援センター職員一人ひとりのスキルアップを図る必要があります。また、コロナ禍以降、人との関わりが減り気分が落ち込んだり、不安になることが増えた、認知症状が進んだという相談があり、アフターコロナや高齢者のメンタルヘルスに取り組む必要があります。

2 権利擁護業務

自己の権利や援助のニーズを表明することが困難な高齢者への支援を行うために、成年後見制度や地域福祉権利擁護事業の利用についての相談や利用支援を行いました。

また、地域包括支援センターが高齢者虐待の通報を受理した場合は、高齢者虐待担当課（長寿政策課）へ報告し連携を図るなか、虐待が疑われる高齢者に対して速やかに状況確認を行い、介護支援専門員とともに介護サービスの調整や介護者の介護負担の軽減に努めました。

【権利擁護相談（成年後見制度・権利擁護事業の利用等にかかる相談）】（市全体 相談件数：503件）

単位：件	項目	令和2年	令和3年	令和4年
南部	相談延べ件数	88	148	182
中部	相談延べ件数	176	131	84
北部	相談延べ件数	196	256	237

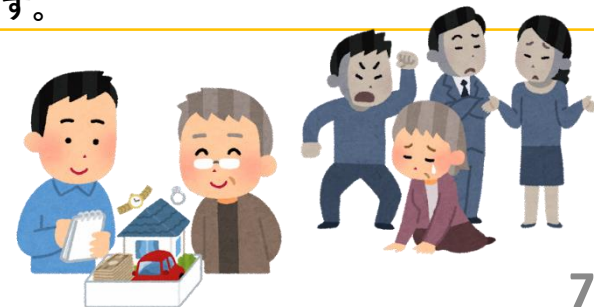
・今後ますます認知症高齢者の増加が見込まれるなか、判断力が低下した人を支援するため、成年後見制度や権利擁護事業の周知啓発を行う必要があります。

・通報受理後に行う事実確認の結果、虐待認定されなくても、緊急対応や不適切な介護として対応したケースがあり、虐待担当と地区担当とが連携を図りながら対応しています。

・ケアマネジャーが介護サービス事業所等から不適切な介護状況の報告をうけていたが、包括への相談までに時間を要するケースがありました。早期に相談していただけるよう虐待・権利擁護について周知啓発を推進していく必要があります。

【虐待通報件数】（市全体 相談件数：35件）

単位：件	項目	令和2年	令和3年	令和4年
南部	相談延べ件数	34	19	10
高齢者人口 6,477人	うち認定件数	17	11	5
中部	相談延べ件数	20	14	7
高齢者人口 5,037人	うち認定件数	14	7	6
北部	相談延べ件数	18	11	18
高齢者人口 7,491人	うち認定件数	7	5	14 前年度未認定分 1含む



3 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務

介護サービスの利用支援を行う介護支援専門員等へのサポートを通じ、介護支援専門員の資質向上および高齢者への支援に努めました。

【ケースカンファレンスへの出席（圏域包括）】（市全体 相談件数：168件）

単位：件	項目	令和2年	令和3年	令和4年
南部	相談延べ件数	97	76	58
中部	相談延べ件数	37	54	38
北部	相談延べ件数	80	109	72

・同行訪問やケースカンファレンスへの出席等を通して個々の介護支援専門員へのサポートを行っています。

・新型コロナウイルス感染症対策として、ケアマネジャー研修はオンライン（ZOOM）と集合研修を同時に行うハイブリッド形式に変更しました。

【ケアマネジャー研修の開催（基幹型）】

	項目	令和2年	令和3年	令和4年
基幹型	回数（回）	6	5	5
	延べ参加者（人）	229	212	183
	1回あたり平均参加者（人）	38.2	42.4	36.6

【「地域で支え合う」を考える勉強会】



【ケアマネジャーと関係機関との研修の開催（北部）】

	項目	令和2年	令和3年	令和4年
北部	回数（回）	2	3	2
タイトル： 「地域で支え合う」を考える勉強会	延べ参加者（人）	ケアマネ 17人 民生委員 39人	ケアマネ35人 民生委員43人 その他17人	ケアマネ26人 民生委員15人 その他10人

4 介護予防ケアマネジメント（基幹型）

総合事業対象者および要支援1・2と判定された人のケアマネジメントを行いました。
また、サービス担当者会議への出席を行い、介護予防サービスの円滑な利用支援および適正な給付管理を行いました。

【サービス担当者会議（基幹型）】

項目	令和2年	令和3年	令和4年
サービス担当者会議出席	331件	328件	368
プラン確認	172件	220件	308



【介護予防サービス計画作成（基幹型）】

項目	令和2年	令和3年	令和4年
居宅介護支援事業所へ委託	7,220件	7,319件	7716
直営	59件	13件	0件

・要支援対象者が増えているため、介護予防サービス計画作成の居宅介護支援事業所への委託件数は増加傾向です。介護予防サービス計画作成は、介護度によりケアマネジャーが変更となることがないよう、要支援から居宅介護支援事業所への委託を推進しているため、直営によるケアマネジメントはありませんでした。

5 在宅医療・介護連携推進事業

地域包括支援センター内に在宅医療・介護連携サポートセンターを設置し、退院時の支援、在宅での療養支援、急変時の対応や在宅看取り支援体制等の整備を進めています。「ACPのさらなる推進」を重点目標とし、在宅医療を支える多職種連携の構築に取組み、研修での意見交換等を通じて、支援機関による顔の見える関係づくりに努めました。

令和4年度は、エンディングノート第2版の活用促進のため、グループワークを取り入れた出前講座を開催しました。参加者からはエンディングノートに対する前向きな声が聞かれ、市民からの口コミによる周知の効果もあり、エンディングノートを新たに5,000部増刷しました。

【在宅医療・介護連携推進事業】

※在宅医療・介護連携サポートセンターで実施

事業名	事業内容	令和2年	令和3年	令和4年
出前講座	医療・介護サービス、在宅看取り等に関する講話 エンディングノート講座	出勤4回 延べ73人参加	出勤3回 延べ23人参加	出勤15回 延べ242人参加
守山顔の見える会	多職種、地域関係者を対象とした研修会 (コロナ禍でR2～グループワークなし。定員制)	2回開催 延べ48人参加 ※4回中止	3回開催 延べ112人参加 ※3回中止	6回開催 延べ328人参加 ※8月～オンライン併用開催
看取りケア研修会	在宅看取りをテーマとした研修会 (講話、グループワーク) テーマ：ACPの取組について、事例検討	2回開催 延べ50人参加	2回開催 延べ44人参加	2回開催 延べ84人参加 ※1日目は守山顔の見える会との合同開催
在宅医療・在宅看取り講演会	◆令和4年11月19日(土) 演題：落語で笑って学ぼう！人生笑顔で！ 笑エンディングノート ～人生について考えてみませんか？～ 講師：生島清身 (行政書士・社会人落語家)	65人参加 ※感染対策のため事前予約制	188人参加 ※感染対策のため事前予約制	119人参加 ※感染対策のため事前予約制

・令和4年度に実施した在宅療養・医療および看取りに関する意識調査を取りまとめ、これまでの取組の評価および今後の課題について検討し、ACPのさらなる推進を目指します。

6 認知症総合支援事業①(認知症に関する普及啓発)

重点

「認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン）」の7つの柱に基づき、認知症になっても住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるまちづくりを推進しました。また、地域全体で取り組む認知症「共生」・「予防」の推進を目指し、認知症に関する普及啓発、認知症の早期発見・早期支援、認知症高齢者や介護家族に対する支援に努めました。

【認知症サポーター養成講座】

認知症に関する正しい知識の普及啓発のため、認知症サポーター養成講座等を開催しています。

単位：件	対象者	令和2年	令和3年	令和4年
基幹	市内事業所、市民	9回開催 延べ303人参加	3回開催 延べ57人参加	9回開催 延べ101人参加
基幹（上級編）	中学校	5回開催 延べ748人参加	6回開催 延べ870人参加	3回開催 延べ818人参加
南部	小学校、自治会	6回開催 延べ445人参加	2回開催 延べ220人参加	6回開催 延べ416人参加
中部	小学校、自治会	—	3回開催 延べ166人参加	5回開催 延べ221人参加
北部	小学校、自治会	6回開催 延べ423人参加	12回開催 延べ436人参加	5回開催 延べ368人参加

子どもへの理解促進の推進に努めています。県立中学校における開催についても検討しています。



【キャラバン・メイト】

キャラバン・メイトには、定例の連絡会や認知症サポーター養成講座等へ出動いただく他、個々の活動の中で認知症の正しい知識の普及啓発に努めていただきました。

	令和2年	令和3年	令和4年	備考
キャラバン・メイト連絡会（基幹型）	4回開催 延べ44人参加 （実 17人）	6回開催 延べ45人参加 （実 19人）	12回開催 延べ107人参加 （実 17人）	圏域包括も参加
キャラバン・メイト出動状況	4回出動 延べ9人出動	10回出動 延べ36人出動	12回出動 延べ57人出動	認知症サポーター養成講座等

キャラバン・メイトの活動として、寸劇などのご協力をいただきました。

認知症総合支援事業②(認知症の早期発見・早期支援)

重点

【認知症初期集中支援チーム】 (市全体 対応人数：25人)

認知症が疑われる人やその家族に対し、専門職がチームを組んで訪問等を行い、認知症の初期・支援開始の初期に包括的・集中的に受診や介護サービス導入などの支援を実施しています。

単位：件	項目	令和2年	令和3年	令和4年
南部	相談実人数	24	4	3
中部	相談実人数	25	22	11
北部	相談実人数	22	18	11

アドバイザーの助言・指導による対象者支援方法の見直し等、認知症初期集中支援チームの活動強化を行いました。

認知症初期症状がある高齢者の把握とその後の支援プログラムの検討が必要です。

【もの忘れチェック】 (合計23回 延べ178人参加)

介護予防教室やショッピングセンターで行う健康相談会の参加者に対し、タッチパネルと問診表を用いた簡易検査を行うことで、認知症の早期発見や認知症に関する啓発等を行いました。

	令和2年	令和3年	令和4年	対象者
基幹型 (圏域共同含む)	24回 68人実施	8回 87人実施	15回 168人実施	・介護予防教室・健康 相談会参加者等
南部	8回 8人実施	3回 3人実施	2回 2人実施	・窓口相談、訪問 ・介護予防教室
中部	—	4回 16人実施	1回 2人実施	
北部	1回 1人実施	5回 5人実施	5回 6人実施	



介護予防事業の体力測定時に、もの忘れチェックを実施することで、認知症予防の啓発につながりました。認知症の疑いがある人を早期に発見し、必要な医療・介護サービスの利用を支援するため、通いの場などへ出向いて働きかけを行う必要があります。

認知症総合支援事業③

(認知症高齢者や介護家族に対する支援)

【家族介護者訪問】

介護保険認定調査項目のうち、「徘徊」「介護への抵抗」にチェックが入るなど介護負担が特に大きいと考えられる認知症の人を介護する家族への訪問を実施し、困りごとの聞き取りや問題解決への支援を行うことで、介護負担の軽減、虐待の予防に取り組みました。

令和4年度分 (3月～12月 抽出分)	対象者 (人)	支援方法（内訳）（人）						
		在宅訪問	電話訪問	窓口面談	訪問拒否	未訪問 (ケアマネジャー等へ 聞き取り)	未訪問	本人は在宅で生活 しているが、介護し ている家族がいない
南部	74	9	7	1	1	47	3	6
中部	49	9	26	3	1	4	1	5
北部	91	35	20	4	0	21	4	7
計	214	53	53	8	2	72	8	18

・認知症高齢者を介護する介護者の心身の介護負担を把握し、ケアマネジャーや認知症専門医・主治医等と連携を図る中、受診や医療・介護サービスの利用支援等により、介護者の負担軽減に努めました。



認知症総合支援事業④

(認知症高齢者や介護家族に対する支援)

重点

【みまも〜り〜カフェ（認知症カフェ）】（合計33回 延べ486人参加）

高齢者およびその家族が気軽に参加でき、相談できる場として各圏域でみまも〜り〜♡カフェを開催しました。
また、認知症サポーターが参画する地域カフェを、「みまも〜り〜♡カフェ」（認知症カフェ）として認定し、地域での居場所づくりを推進しました。



	カフェ名	令和2年	令和3年	令和4年
基幹型	もりやまオレンジあったカフェ ※中部担当として開催	コロナにより中止	—	—
南部	お結びカフェ	コロナにより中止	6回開催 延べ62人参加 ※コロナにより5回中止	11回開催 延べ229人参加
中部	こもればいカフェ	—	令和4年3月開催 4人参加	12回開催 延べ97人参加
北部	オレンジカフェほっこり庵〜絆	6回 ※コロナにより6回中止	7回開催 延べ98人参加 ※コロナにより4回中止	10回開催 延べ160人参加
地域における 認定カフェ	(守山市認定) みまも〜り〜♡カフェ	13か所 ※南部7か所 中部4か所 北部2か所	13か所 ※南部7か所 中部4か所 北部2か所	12か所 ※南部6か所 中部4か所 北部2か所



少人数・短時間など感染症対策に留意しながら、認知症高齢者や介護者への参加勧奨を行い、高齢者の居場所や相談の場としての周知啓発に努めました。

認知症総合支援事業⑤

(認知症高齢者や介護家族に対する支援)



重点

【行方不明高齢者等SOSネットワーク】

市内を業務区域とするバス会社、タクシー会社、郵便局、コンビニエンスストア、介護事業所等にご協力をいただき、見守り支援を行いました。また、令和元年11月から開始した行方不明高齢者等SOSネットワーク事前登録事業において、行方不明となる可能性のある高齢者等の情報を事前に登録いただき、警察、消防等と情報共有することで、行方不明発生時の早期対応・早期発見に努めました。

	令和2年	令和3年	令和4年	備考（令和4年度内訳）
行方不明高齢者等 発生状況	延べ20件、実20人 （延べ9件対応、 延べ11件事後報告）	延べ29件、実23人 （延べ13件対応 延べ16件事後報告）	延べ25件、実23人 （延べ12件対応 延べ13件事後報告）	南部9件、中部8件、北部8件 ＜状況内訳＞ 行方不明時GPS利用 1件 アイロン名札配布済み 2件 発生時事前登録済み 11件 行方不明後の登録 13件
発見状況	市内15件 市外5件	市内23件 市外6件	市内19件 市外6件	警察4件、地域住民12件、家族・親 族3件、自力帰宅2件、その他4件
SOSネットワーク配信	2件	3件	5件	安全・安心メール2件
安全・安心メール登録者数	約7,000件	約9,500件	約10,000件	登録者へ行方不明高齢者等情報を 配信
行方不明高齢者等 SOSネットワーク協力機関数	63事業所	64事業所	72事業所	薬局4店舗、コープ配送センター、宅配 弁当、フードバンク、関電サービス追加
行方不明高齢者等 SOSネットワーク事前登録者数	39人 （累計80人）	55人 （累計135人）	62人 （累計197人）	男性 36人、女性 26人 うち、行方不明歴あり 25人 介護認定あり 56人

事前登録者の増加により、市民や警察に保護された際の身元の確認が早く実施でき、早期帰宅につながっています。引き続き、SOSネットワーク事前登録について介護支援専門員、医療機関への周知や、家族介護者訪問の機会などを活用し、対象者へ登録勧奨を行います。

7 地域ケア会議推進事業

個別事例に共通する地域課題を整理し、見出された地域課題の解決に向けた対応策を検討するため、地域ケア会議を開催しました。

	項目	令和2年	令和3年	令和4年	見出された地域課題等（令和4年度内訳）
基幹型	地域ケア推進会議	2回開催	2回開催	2回開催	・男性介護者の孤立、見守り体制の構築。 ・移動サービスについての検討が必要。 ・エンディングノートの周知啓発。 ・在宅療養をする上での本人、家族の意思確認や支援者間での共通認識の醸成。 ・出前講座等による介護予防の普及啓発(コロナ禍で閉じこもりになっている人への支援) ・多様性・柔軟性のある居場所づくり、社会資源が必要。
	地域ケア個別会議（定期開催）	4回開催 12事例	3回開催 9事例	4回開催 8事例	
南部	地域ケア個別会議（随時開催）	1回開催 1事例	10回開催 10事例	8回開催 6事例	・キーパーソンがいない人の支援 ・高齢世帯の金銭管理等の課題 ・認知症の人の支援
中部	地域ケア個別会議（随時開催）	—	1回開催 1事例	7回開催 3事例	・多頭飼育・多重課題 ・複合的な課題を抱える家族への支援 ・閉鎖的な介護環境
北部	地域ケア個別会議（随時開催）	1回開催 1事例	1回開催 1事例	8回開催 8事例	・精神疾患を持つ高齢者の支援 ・認知症に関する普及啓発、見守り体制の構築 ・経済的な課題と居住場所確保の課題

・高齢者数の増加により、独居や高齢夫婦世帯、認知症の人が増加し、複合的な課題を抱え、課題の解決が難しいケースについては、関係課や支援者間の連携により対応支援に努めています。

8 一般介護予防事業①

重点

高齢者等が自主的に介護予防に取り組んでいただけるよう、出前講座での知識・情報の提供や、生活機能の維持向上を目的とした介護予防教室を開催しました。

【出前講座】（合計143回 延べ4,294人参加）

地区会館や自治会館等で実施されるサロン等に講師（医療・介護専門職）を派遣し、介護予防、認知症、高齢者虐待等に関する知識の普及啓発を行いました。

	対象者	主な内容	令和２年度	令和３年度	令和４年度
基幹型	市全域、団体等	介護予防・健康づくり、在宅医療・介護、認知症サポーター養成講座、物忘れチェック、権利擁護・虐待等 ※認知症サポーター養成講座のみ再掲	14回開催 延べ293人参加	18回開催 延べ1,058人参加	57回開催 延べ1,703人参加
南部	各圏域の 自治会、団体等		19回開催 延べ758人参加	13回開催 延べ512人参加	25回開催 延べ977人参加
中部			17回開催 延べ488人参加	15回開催 延べ395人参加	19回開催 延べ511人参加
北部			21回開催 延べ735人参加	25回開催 延べ633人参加	42回開催 延べ1,103人参加

- ・新型コロナウイルス感染症の影響により、自治会やサロン等の集まりが自粛されていることが多く、令和2年度から出前講座の申し込み数は減少傾向にありましたが、令和4年度は改善傾向となりました。
- ・特に基幹型地域包括支援センターでは「通いの場における感染症予防（新）」と「エンディングノート」をテーマにした出前講座にて参加支援等が増加しました。



一般介護予防事業②

重点

【各圏域地域包括支援センター主催による介護予防教室】（合計18回 実41人 延べ189人参加）

居場所づくりや通いの場への参加のきっかけとなるよう、各圏域地域包括支援センターで介護予防教室を行いました。
各日常生活圏域の特色に合わせて、内容を工夫しています。

	教室名	内容	令和2年度	令和3年度	令和4年度
南部	Let'sトライ8	守山いきいき百歳体操、もりやまプラス体操、脳トレを実施。 終了後3ヵ月後にフォローアップ（体力測定、通いの場への参加勧奨）を実施。	8回開催 実10人参加 延べ75人参加	8回開催 実12人参加 延べ69人参加	8回開催 実15人参加 延べ59人参加
中部	今日からはじめるフレイル予防	「栄養」、「口腔ケア」、「認知機能向上」、「運動」、「社会参加」をテーマに様々な専門職が講義や守山健康のび体操・守山百歳体操の実技を実施。	—	令和4年1月～2月に5回開催予定だったが、1回目のみ開催 実17名	5回開催 実11人参加 延べ37人参加
北部	ワンステップチャレンジ教室	守山いきいき百歳体操やもりやまプラス体操、脳トレを実施。	8回開催 実10人参加 延べ62人参加	8回開催 実10人参加 延べ47人参加	5回開催 実15人参加 延べ93人参加

- ・南部地区、北部地区地域包括センターでは、教室内で体操を継続することの重要性を説明する他、脳トレの紹介などを行い、地域における通いの場への参加勧奨を実施しています。
- ・中部地区地域包括支援センターでは、フレイル予防に必要な知識を習得できるよう管理栄養士・歯科衛生士・言語聴覚士・福祉用具専門員・福祉住環境コーディネーター等を招き、健康教育を実施しています。



【Let'sトライ8】（南部）



【ワンステップチャレンジ教室】（北部）

一般介護予防事業③

重点



【基幹型地域包括支援センター主催による介護予防教室】

介護予防に取り組むきっかけとなるよう、各体操別に介護予防教室を行いました。

令和4年度から新たに「65歳からの過ごし方教室」を開催し、フレイル予防やエンディングノートの活用について普及啓発に努めました。

教室名	参加対象者	令和2年度	令和3年度	令和4年度
いきいき+トレーニング	令和元年・2年度：65歳以上の市民 令和3年度から：自治会単位	24回開催 (12×2教室) 延べ239人参加 実22人参加	実施希望自治会を募集したが、応募なし	3自治会に開催 (梅田、弥生の里、笠原)
健康のび体操体験会	健康のび体操を体験したい人	3回開催 23人参加	令和4年2月に開催予定だったが、中止。	事業終了。 65歳からの過ごし方教室内で健康のび体操の体験を実施。
健康のび体操教室	教室終了後、既存の自主グループ活動に参加する人、 または新規に自主グループを運営する人	11回開催 延べ94人参加 実11人参加	8回開催 延べ61人参加 実15人参加	5回×2会場開催 実15人 延べ65人
【新】 65歳からの 過ごし方教室	65歳以上の市民	-	-	5回×3会場開催 実40人 延べ177人

【通いの場の活動支援】（合計：100グループ 目標：105グループ）

地域の身近な場所で継続して介護予防に取り組めるよう、ご希望のグループに対し、年1回の体力測定や健康教育を実施しています。

単位：グループ	令和2年度	令和3年度	令和4年度
守山百歳体操	68	73	75
守山健康のび体操	17	21	25

・介護予防教室終了後には、通いの場の立ち上げ・活動開始に繋がることが多く、通いの場の増加に繋がっています。
・自治会等からの自主グループの立ち上げの依頼により、通いの場は増加しています。

9 任意事業・その他事業

【家族介護者教室】（合計14回 延べ152人）

家族介護者の心身の介護負担が軽減されるよう、介護をしている人や介護に関心のある市民を対象に、介護の知識・技術の習得および情報共有・情報交換の場として、家族介護者教室を開催しました。



	主な内容	令和 2 年	令和 3 年	令和 4 年
基幹型	・介護保険制度について ・認知症について ・高齢者の住環境・福祉用具の活用 ・すぐに役立つ！介護技術 ・アンガーマネジメント 等	延べ62人参加	—	—
南部		延べ35人参加	延べ48人参加（全 5 回）	延べ61人参加（全 5 回）
中部		—	延べ22人参加（全 2 回）	延べ28人参加（全 5 回）
北部		延べ104人参加	延べ78人参加（全 5 回）	延べ63人参加（全 4 回）

感染症対策に留意しながら対面による家族介護者教室を開催しました。
 南部地区で開催した際には、「アンガーマネジメントがよくわかった。」「福祉用具を実際に体験できて良かった。」「移乗介助の実技が理解できた。」との声があり、介護者が具体的な介護技術やメンタルケアについて講師から直接学ぶことのできる機会となりました。



【その他】

圏域独自の取り組みとして、地域課題から身近な地域で相談できる体制づくりに努めました。

	教室名	内容	令和 2 年	令和 3 年	令和 4 年
南部	小津介護なんでも相談会	出張相談	2 回延べ 2 人参加	2 回 延べ 1 人参加	—
	いきいきプロジェクトIN小津	体操、脳トレ等	—	2 回 延べ17人参加	3 回 延べ13人参加